

この集いは2007年秋に始まり今に至っています。『シニアの会』と称して始めた集いが今では20代から80代、在留邦人もデンマーク人も幅広く集まるようになってます。2世の子達には日本語教室『寺小屋教室』が設けられ、それが日本語ばかりでなく同時に先生方はマザーグループの様に日常のAからZまで相談しあったり助け合ったり、子ども同士は仲良く兄弟姉妹の様な家族同様のグループとなりました。1人ひとりの性格を生かし素晴らしいグループです。新年会で和子会長が挨拶の中で、日本人会は、会員に企画への参加目的ばかりでなく、ネットワークを広め交流を重視し、益々素晴らしい日本人会の発展を望みにつなげてほしいと述べましたが、まさにユラン・フン島の集いは会長のこの言葉どおり、常日頃から和を広げてこの会を充実させていると確信しております。たいへん楽しい集いです。まだこの会に参加されていないご家族の皆さん一度のぞいてみませんか!この集いは会員の皆さんで力を合わせ、楽しい企画を相談し合い交流を深める会です。 君子 ワラセン

新年会

2014年ユラン・フン島新年会に参加してきました。暖冬が収まった感じの1月19日、前週に積もった雪の残るオープスの集会所で開催された7回目の新年会には、東はコペンハーゲン、西はエスビアから総勢51人が参加しました。前年に比べて参加者は少なかったようですが、それでも会場は例年通りの賑やかな雰囲気にも包まれて楽しんでいかれたと感じています。

ユラン・フン島新年会の目玉と言えば、デンマーク・エスビア製の特注石臼と、ハンドメイドの杵を使う「餅つき」です。日本人会役員の君子さんが息子さんとの共同作業で日本流の石臼を製作させたそうで、日本でもなかなか見られない重厚で本格的なものです。重さゆえ運搬据付が大変ですが、実際ついてみると心地よい安定感に満足させられます。まだご覧になっていない方は是非次回ご覧ください。一見の価値あります。

ふかしたもち米のなんともいえない良い香りが漂う中、餅つきがスタートしました。老練?のつき手がやり方を披露したあと希望者が挑戦、「餅つきはつき手とこね手2人が呼吸を合わせリズムよく」というのがセオリーですが、ほとんど餅つきの経験のない方ばかりで、杵を天井に着くまで振り上げたあと力任せに叩きつけて石臼の端に杵を当ててし待ったり、逆に、正確に臼中央に杵を命中させようと水飲み鳥の玩具のようなぎこちない格好でついたり、そんな姿に会場中で大笑いしながら楽しみました。(デンマークの方々は、自分

が上手に出来るかなど気にせず、楽しみたいと思えば積極的に参加される方が多いです。私自身これは見習いたいなと感じています。)子供たちも列を作ってつき手の順番を待ち、自分の番になると重い杵を真っ赤な顔で持ち上げてこね手の掛け声に遅れまいと頑張っていました。出来上がった餅は例年になく滑らかで(私感ですが)お手伝いの方々に海苔もち、アンコロもちに丸められて参加者に振舞われました。

昨年より、コペンハーゲン在住の規子さんに当新年会へ助っ人として参加していただいています。彼女はこね手のエキスパートで、去年はつき手のエキスパートとして名高い佐野大使(当時)とのペアで芸術のような餅つきを披露していただきました。規子さんと旦那様には紙面を借りてご協力に感謝いたします。

餅つきのあと、参加者全員での合唱や、子供たち参加のゲームなどで楽しみ、無事閉会となりました。

新年会のお手伝いは今年で2回目になります。そして私のデンマーク在住も4年目を迎えました。ここに来て、異国での同邦仲間のありがたみを強く感じています。今回の新年会冒頭の挨拶で会長の和子さんや顧問の高井さんが異口同音に「同邦の絆の大事さ」についてお話されていました。今後このような日本人会の集まりを通じて仲間を増やしてゆければと考えています。

西岡裕康



ユラン・フンの集いの会

活動に参加して

去年初めて日本人会の会員になり、それから様々なイベントに参加したこの1年間。

そして催し物とは別に日本人会の会員になろうと思ったきっかけ、それは日本語を子供たちに教える寺子屋でした。名前の渋さにも惹かれると同時に、当時日本人の血が半分流れてはいるものの、八割方デンマーク人と化した息子になんとか日本語を覚えてもらいたいと思っていた私は、渡りに船と早速寺子屋の見学に参加させてもらうことに。

場所はBillundのスポーツセンターの一室で、授業内容も子供たちのレベルに分け、教科書やお手製のカードなどを使ったり、日本語の歌を皆で歌ったりと子供たちが飽きないように、その都度授業内容を変えていくやり方でした。教える先生というも自分たちで分担(生徒の親が自分の子供以外を教える)という形をとっていて、時に鬼となる母以外の人から日本語を教えてもらうというのは、息子にとっても新鮮で楽しい時間となったようです。

天気の良い日には授業後に、子供たちは教室からさほど遠くないレゴランドで遊んでいる間、大人たちはお茶しながら待ったりと、それぞれに楽しい時間を過ごせたことも、寺子屋に入ってからの楽しみにもなりました。

そして2014年、今年初めての日本人会のイベントはオーフスでの新年会でした。

当日は雪こそ降らなかったものの、人々が「今日は寒い!」「風が冷たい!」と口にするほど寒い日の新年会。当日は少し早めに行って、会場の準備の手伝いをしていたのですが、まず目にはいったのが大きな木できた杵と臼。デンマークでまず見ることはないと思っていた存在に少し驚きつつも、これで新年会のメインイベントのひとつである餅つき実演をするのか、と思いながら準備の為にキッチンにはいると、そこには全自動でもちをこねる餅つき機が、全力でもちを作っていました。

聞くと餅つき実演前にすでに食べられる状態の餅を用意するための餅つき機だそうで。なるほど。

去年よりも今年の新年会は参加人数が若干少ないものの、子供から(少しだけ)年配の方、以前から何度か知った顔の人や久しぶりに会う人、そして初めて参加するひとなど、文字通りの老若男女で賑やかに新年会は始まりました。今年の新年会の料理は各家庭のご自慢料理を持参してのポットラック形式で、バラエティに富んだビュッフェを食べつつ、会話を楽しみ、お腹もいっぱい。

しばらくすると準備しておいた杵と臼でのもちつき実演が始まり、力のありそうな男の人が次々に捕まえられては、重

量感のある杵を渡され、ヨイショ!の掛け声と共に蒸したもち米が美味しそうなお餅へと変化を遂げてました。そして実演が終わるとさっそくの試食。

事前に用意しておいたあんこ餅と磯辺焼きをお皿に出すと、日本人から「わあ!お餅!」という声が上がリ、さっそくみんなでお餅を試食。さっきまでお腹一杯だったのもなんのその、甘いお餅としょっぱいお餅で永遠に手が止まることがないわ、と思ったのですが、さすがにお餅。急にお腹がいっぱいになりました。

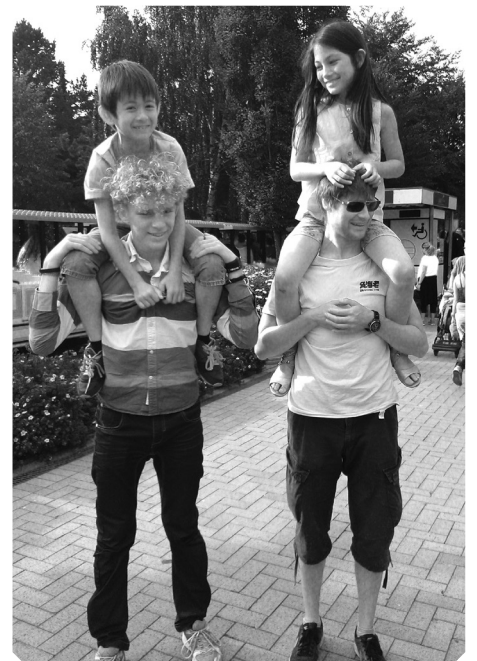
けれどもつきたてのお餅は甘くて柔らかく、お土産用のお餅もあつという間に売れていたのも納得。

そのあとは旗揚げゲームを子供たち、デンマーク人のみで挑戦してみたり、お正月には福笑いでしょ!とのことで目隠しして大きな顔の福笑いをしたり、歌を歌ったりとあつという間の新年会でした。

今回のオーフスでのイベントも、オーフス以外から参加している人も多く、みんなで手伝い、作りあげていく『フン・ユランの日本人会』というのも今回、参加してみて改めて実感しました。

日本人会の会員になり1年、これからも色々な場所、いろいろなイベントで皆さんと知り合う機会が増えれば良いなと思っています。

ランドルップトムセン貴子



ユラン・フンの集いの会

ユーラン半島、フン島に在住日本人会の皆様で力をあわせ、家族皆で楽しみませんか? 申し込みは下記まで。

日本人会事務局 : nihonjinkai@hotmail.com

または 君子ラワセン : pclauz@post5.tele.dk famlaursen@esnet.dk